



2017年12月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0690

岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F

TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491

e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.jp

ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

「ロヒンギャ難民緊急募金」にご協力ください

～命の危機にさらされるロヒンギャの子どもたち30万人超～



8月25日以降、ミャンマーのラカイン州からバングラデシュに流入したロヒンギャの人々の数は60万人以上、その半分は子どもと推定されています。ある難民キャンプではここ数週間で難民の数が2倍以上にふくれあがり、雨ざらしの屋外での生活を余儀なくされている人も大勢います。着の身着のまま増水した危険な川を渡るなどして国境を越えた難民の人々へ、早急な支援が必要とされています。皆さまの温かいご協力をお願いいたします。



▲洪水地域や水田を歩き、避難キャンプを目指す母子



▲県ユニセフ協会では、イベント会場で募金の呼びかけをし、20,173円を日本ユニセフ協会に送金しました。

最近のユニセフの活動状況

9月24日、ロヒンギャ難民の子どもとその家族のためにユニセフが手配した緊急支援物資100トンが、バングラデシュの首都ダッカに到着しました。支援物資には、浄水剤、家庭向け衛生キット、衛生用品、防水シートや子どものためのレクリエーション・キットが含まれており、さらに、通学バッグ、仮設テント、幼稚園キット、家庭用の水と衛生キットおよび栄養関連物資も到着する予定です。

ロヒンギャ難民 緊急募金

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会

※通信欄に「ロヒンギャ」と明記願います。

※窓口での振り込みの場合は、送金手数料が免除されます。



▲難民の子どもに予防接種を行うユニセフの保健員

長谷部誠 選手日本ユニセフ協会大使

エチオピア訪問

「今後も、こうした活動を続けていきたい」

～ワクチンを届ける旅～

長谷部選手は、2015年11月、世界最大の子どものワクチンの調達・供給を担うユニセフが全世界で展開する予防接種支援活動の重要なハブとしての役割を担うデンマーク・コペンハーゲンのユニセフ物資供給センターを訪問。はしかを含めたワクチン調達・供給の仕組みやその規模を学び、予防接種支援活動の重要性も改めて確認されました。5月29日(月)、そのワクチンが実際にどのように子どもたちのもとへ届くのかを自らの目で見届けるため、エチオピアを訪問されました。



©日本ユニセフ協会/2017

▲アディスアバの冷蔵貯蔵施設から北シユウ県の中継施設を経由して届けられたワクチンを入れた小型の保冷ボックスを肩に掛け、保健センターのスタッフとともに予防接種活動が実施される村に向かう長谷部選手。



©日本ユニセフ協会/2017

▲村の子どもたちに、はしかワクチンが接種される様子を見守る長谷部選手。



©日本ユニセフ協会/2017

▲予防接種に集まったお母さんたちから話を聞く長谷部選手。

日本ユニセフ協会大使
日野原重明先生に
感謝を込めて



先生の生前のお力添えに、心より感謝を申し上げます。

どんな子どもも生まれながらに平等であるべきだし、どんな子どもたちも私と対等だと思っています。子どもは対等な目線で付き合うと必ず答えてくれます。

(2007年 大使就任後の対談にて)

岩手県ユニセフ協会活動報告

ユニセフ講座 「ルワンダから学ぶ 大切なもの～命・平和・教育」開催



▲講演を聴く参加者の皆さん

2017年7月29日、いわて県民情報交流センター「アイーナ」において、大学生・市民・県内外から60名の参加をえて、JICA東北支部との共催で開催。県内だけでなく、宮城・秋田・青森からも参加いただきました。講師の永遠瑠(トワリ)・マリールイズ理事長(NPO法人「ルワンダの教育を考える会」)は、戦争で心身共に傷ついたアフリカルワンダの子どもたちに学校教育を支援するために、日本とルワンダを行き来しボランティア活動をしています。会場では、写真展・ルワンダ物産コーナー(コーヒー・紅茶・手作り品)も同時開催。



参加者たちから、「ルワンダという国を今日初めて知ることができました。ルイズさんの努力あらためてすごいなあと感動しました」「インターネットなどでルワンダのことはある程度知っている筈でしたが、講座では多くのことを学ばせていただきました。女性の活躍がめざましく、女性国会議員の率が世界一である事も知りました。」

永遠瑠(トワリ)
・マリールイズさん

コンゴ生まれ。ルワンダで洋裁教師をし、1993年5月青年海外協力隊カワウソウパートとして福島文化学園で研修。

1994年2月ルワンダ難民。4月7日内戦に巻き込まれ、コンゴ民主共和国難民キャンプに送られる。

1994年12月家族で再来日し、研修生時代の友人の尽力でNPO法人「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、ルワンダ共和国の首都キガリ市内に学校設立。命の尊さ、教育の大切さを訴える活動で全国を駆け回っている。

2011年3月、東日本大震災で被災、原発事故を経験。



▲交流会ではルワンダに大学をの願ひも



▲終了後にルイズさん(前列中央)と記念撮影

出前講座 奥州市立広瀬小学校 ～幼い子どもたちの命と未来を守る～

2017年10月24日(火)広瀬小学校 1～6年生52名は、世界にはさまざまな国があり、同じ地球に生きるお友だちのこと、小さい命を守るために自分たちには何が出来るかを学びました。

ユニセフが支援していること、赤ちゃん体重計・プランピーナッツ・経口補水塩・虫下し…また、きれいな水について学びました。

最後にみんなで手洗いの紙芝居をみて手洗いダンスをしました。「学校にいけない子がいること」「栄養をとれない子どもがいること」「きれいな水がめえない」「手洗いや掃除などしっかりやり、募金など協力したい」など全員から感想が寄せられました。



ユニセフ研修会に参加して

福士久美子

6月22日～23日で全国協定地域組織学習講師研修会に参加しました。事前に渡されたプログラムを見て、「全国からの事例報告があり楽しみだな、SDGsってなんだ?Google社のワークショップって何するのだろう」と思いながら参加しました。

2000年に掲げられた8つのミレニアム開発目標(MDGs)は、すべてを実現できなかったままでも大きな前進を見えています。

2016年以降の目標として、持続可能な開発目標(SDGs)に理解を深めました。ミレニアム開発目標は主に途上国の課題であったが、持続可能な開発目標では地球全体としての課題が取り上げられるようになったため、先進国もその実現に積極的に関わっていくことになりました。2030年までに達成すべき17の目標実現に向けて、格差のない社会の実現をめざして、私たちの小さな一歩から…と思います。

インターネット関連を提供する企業側であるGoogle社が、子どもたちにインターネットを安心・安全に活用してもらうためのワークショップは、興味深いものでした。便利なツールを正しく使うために大切な研修でした。また、全国の事例報告はとても勉強になりました。



▲神奈川県ユニセフ協会の発表

ユニセフ募金贈呈

ゆかわ脳外科スポーツクラブ



▲10月30日
花巻市ゆかわ脳外科スポーツクラブ様からユニセフ募金175,106円が、花巻友の会、林正文会長に贈呈されました。

2017ユニセフのつどいinいわて ～地球のステージ～

11月5日(日) 滝沢ふるさと交流館で、滝沢市教育委員会、滝沢市国際交流協会との共催で開催。オープニング劇団ゆうミュージカル「美女と野獣」と、NPO法人地球のステージ代表理事桑山紀彦氏の地球のステージに来場者200名は魅了されました。

参加者から、「劇団ゆうのミュージカルが素晴らしかった」「地球のステージでは、いろいろな国の様子を知り、貴重なひとときでした。飛行機事故や東日本大震災にふれ、たくさんの方の思いを改めて知りました。すばらしい活動に拍手いたします。自分も世の中に役立つように心がけたいと思いました。」

「どちらもとてもすばらしいステージでした。「美女と野獣」は劇団四季を観たことがあります。遜色ないように思えました。地球のステージも感動しました。若い人々にもっと観てもらいたいですね。すばらしい機会をありがとうございました。」

「ユニセフの活動がよくわかり、大変よかったです。関上地区のお母さんの話、泣けて泣けてしかたなかったです。「命の大切さ」を実感しました。」



▲NPO法人地球のステージ代表理事 桑山紀彦氏



▲桑山紀彦氏



▲劇団ゆう



▲桑山紀彦さんとボランティアスタッフ

東日本大震災支援

- CAP(子どもへの暴力防止プログラム)リアスは東日本大震災後誕生し、今年度山田町幼稚園・保育園・ママカフェ・大洋学園で、12回ワークショップが開催されました。
- 今年も兵庫県ユニセフ協会からチュウリップの球根が届き、大槌保育園に届けました。
- 大槌キッズコーラス♪あぐどまめは、現在21名の団員で活動しています。12月23日、第9回あぐどまめコンサートを大槌中央公民館で開催。これからも大槌とつながっていきたい。



▲CAPワークショップ



▲いわて生協福祉まつり 10月8日
持続可能な開発目標(SDGs)17の目標とユニセフの活動ステージ発表

ワン・ワールドフェスタ inいわて ～11月19日開催～

ユニセフコーナーでユニセフクイズ・募金活動



日本ユニセフの ルーツにふれて

岩手県ユニセフ協会事務局長
藤原 綾子

2017年9月29日、日本のユニセフのルーツを訪ねたいという思いで久留米ユニセフ協会50周年記念式典に参加させていただきました。

1953年石橋正二郎氏(プリジストン株式会社創業者)と富久夫人は、ヨーロッパ視察の際、オランダで未曾有の大洪水に見舞われ、「ユニセフ救援物資」が各国から運び込まれるのを目のあたりにし、「相互扶助の国際愛」に感動し、帰国後、数人の女性たちと共にユニセフ駐日代表(マリグリータ・ストレーラー女史)をサポートする活動を始められたそうです。やがてこのボランティア組織は、「日本ユニセフ協会」として1955年財団化され、現在に至っています。

東京だけにとどめたくないと、特に石橋富久氏が中心となって「ユニセフ友の会」を郷土の久留米市に設立し、地元で根付いたユニセフ支援活動を日本中に広めたいという思いがあったということでした。

現在、全国の地域組織は26県で活動していますが、学校・個人・企業・団体からユニセフ募金が寄せられています。岩手県ユニセフ協会は設立10周年の時、2011年3月11日東日本大震災に遭遇しました。ユニセフは「日本の子どもたちを支援する」と国内外に呼びかけ世界中から支援が届けられました。

石橋ご夫妻が見た光景は、日本の、そして久留米ユニセフ協会の活動のルーツであり、今の私たちに繋がる活動と改めて感じました。



▲久留米ユニセフ協会50周年記念
パレスチナ ガザ地区でユニセフが支援する
青少年センターの子どもたちと学生の交流
「今私たちにできること」

ユニセフ写真パネル展

アグネス大使 シリア周辺国訪問

シリア難民の子どもたちを「失われた世代」にしないために



© 日本ユニセフ協会

▲故郷シリアについて話す少女たち

内戦が始まる前、シリアは、数十年にわたって続いたユニセフの支援からの「卒業」が間近に迫っていました。

ほぼすべての子どもが義務教育を享受(初等教育就学率=95%)。乳幼児死亡率は先進国も含めた世界195カ国中115位で、乳幼児の予防接種率も80-90%と、日本と比べても非常に高い水準を達成していました。

しかし、6年にわたる内戦は、国中に整備された社会的サービス網を完全に破壊。以前は全国民の9割が使っていた安全な飲料水の確保もままならず、衛生環境も急激に悪化し、「遠い昔のこと」だった子どもや妊産婦、乳幼児を抱える母親の急性栄養不良も報告されるようになりました。シリア国内で支援を必要としている子どもは、およそ600万人。これに、周辺国に逃れたおよそ240万人が加わり、800万人以上の子どもたちが、二度と取り戻すことができない「子ども時代」を奪われています。シリアは、未来を担う世代を失う危機に直面しています。



© 日本ユニセフ協会

▲ヨルダンにある世界最大の難民キャンプ

アグネス・チャン ユニセフ・アジア親善大使は、難民キャンプでの支援に留まらず、地元での受け入れなどを含めた持続可能な教育支援体制の構築など、周辺国の地元政府やユニセフによる「失われた世代」を作らないための取り組みを取材しました。

ユニセフ募金、募金につながる「書損じハガキ」「外国コイン」「古切手」を受け付けています。ご協力ください

盛岡市 3月15日(木)~18日(日) プラザおでっ

花巻市 3月20日(火)~24日(土) 花巻市 妙圓寺

開催時間(両会場共) 10:00~17:00 最終日 15:00 終了

入場無料

賛助会員として、世界の子どもたちのためにユニセフを応援しませんか

賛助会員ってなあに？



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口 5,000円 <small>※1口以上、何口でもご協力いただけます</small>	入会月~1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口 2,000円	入会月~1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口 100,000円	入会月~1年間

※一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

※賛助会員は寄付控除の対象になります。

お願い

個人・法人を問わず、ユニセフロゴマークを使用したり表示する事、および(公財)日本ユニセフ協会賛助会員である事を営利目的のために表示する事はできません。

賛助会費のお支払い方法

一般および学生賛助会員の会費は、金融機関(銀行、信用金庫等)またはゆうちょ銀行からの口座振替にてお支払いいただけます。お申込み時にご指定いただいた口座から、毎年入会月に会費を引き落としさせていただきます。団体賛助会員の会費については、ご案内を別途お送りしております。ご希望の際は、お問合せください。

※皆様の個人情報、公益財団法人日本ユニセフ協会が日本におけるユニセフ国内委員会として行う活動—ユニセフ(国際連合児童基金)本部との協力協定に基づき、世界の子どもたちの権利を守るために日本において行うユニセフの広報活動・募金活動—の目的にのみ利用いたします。

賛助会員の特典

賛助会員としてご登録いただけますと、会員証を発行し、機関誌「ユニセフ・ニュース」(年4回発行)をお届けします。ユニセフが世界で行っている支援活動の報告や、開発途上国の子どもたちの状況、国内イベントの情報など最新情報をご覧いただけます。ご希望の方には、ユニセフ・ニュース等でご紹介するユニセフの最新資料を1部まで無料でお送りしています。

賛助会員を希望される方は県ユニセフ協会まで。

ユニセフ支援ギフト

途上国の子どもたちに、ユニセフの支援物資をプレゼントしませんか。



ユニセフ支援ギフトとは？

ユニセフの支援物資を、途上国の子どもたちにプレゼントするご支援方法です。ワクチン、治療用ミルク、蚊帳などのユニセフの支援物資をご指定ください。ユニセフがあなたに代わって、子どもたちのもとにお届けします。



あ・と・が・き

◆11~12月は、ユニセフ・ハンド・イン・ハンド募金活動月間です。

テーマ

「子どもたちに生きるチャンス」

世界の5歳未満児死亡率は1990年から半以下に減少しましたが、その一方で、およそ約5秒にひとりの子どもたちが予防可能な原因で5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。世界のどこに生まれても尊い命。今年も、盛岡市、花巻市、宮古市で街頭募金活動に中・高・大学生がボランティア活動に参加しています。みなさまのご支援をお願いします。(事務局)



©UNICEF/UNI178392/Pirozzi

支援ギフトカタログは県ユニセフ協会まで